

平成 25 年 №43

はつはる号

あきばさん

発行所
 秋葉山 新井寺
 272-0144
 千葉県市川市新井
 1 丁目 9 の 1
 でんわ 047-357-8319
 FAX 047-357-8399
 mail: info@shinseji.jp
 http://www.shinseji.jp
 郵便振替 00150-2-282968
 発行人 新井寺

年頭のごあいさつ

当山住持

平成二十五年の年頭にあたり、當寺檀信徒の皆様、當寺秋葉講中の皆様、さらに有縁無縁 信心の皆さまの福寿ご多幸を祈念申し上げます。

昨年は、一昨年三月十一日の誰しもが決して忘れてはならない「東日本大震災」の影響を受け、復興も思うにまなならず、何かにつけて厳しい一年ではなかったかと存じます。今年こそは、被災された皆様の一日も早い復興と、物心共に調和のとれた豊かな年でありますよう、心 から念じ上げる次第です。

當山では、昨秋 十一月四日から九日まで、二十名の檀信徒の皆様とともに、かねてから企画し念願しておりました仏教の源であるお釈迦さまご生誕の地

「ルンビニ」をたずね、さらにネパールの仏蹟を参拝してまいりました。この仏蹟参拝の中でも特に、ご生誕の地ルンビニやお釈迦さまが出家されるまで生活されていた王舎城跡では、参加者一同で「般若心経」を誦経、梅花流詠讃歌もおとなえ申し上げ、法悦に浴しました。私たちの曹洞宗では、ご承知のように、「一仏両祖（いちぶつりょうそ）」さまを正しく信仰し、その教えのもとに、日常生活を、人生を平和にお導きいただいております。一仏とは、お釈迦さまであり、両祖とは、大本山永平寺を開かれた道元禅師様と大本山総持寺を開かれた瑩山（けいざん）禅師さまです。私たちは、本年も一仏両祖さま・ご先祖さまの信心の世界をさらに親しく勉強し、実践精進して感謝報恩の日々を互いに深めてまいりたいものです。

願わくはこの功德を以て
 普（あまね）く一切に及ぼし我等と
 衆生と皆共に仏道を成ぜんことを

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。お互いによい年でありますように。

合掌



ネパール仏蹟参拝の旅
 王舎城跡にて



あけましておめでとうございませす
今年もよろしくお願いいたします

平常心是道

山本崇文



「元旦」とは、年の元(はじめ)、夜が明け地平線より太陽が現れたことを表しています。年が明けたからといって、劇的に何かが変わるといふことはありませんが、「一年の計は元旦にあり」と言われるとおり、何ごとにも元(はじめ)が大事であります。新年(新たな年)、改歳(歳が改まる)を迎え、新たな心で、心を改める。昨年の反省と感謝と共に、自ら誓いをたて、心を正す月であるので「正月」というわけです。

皆様も新年を迎え、自らの「誓い」をたてられるかと思えます。しかし、日々生活のどこかで、その誓いは少しずつ忘れ去られているような気がしませんか？車や携帯電話、その他の物でもそうですが、子供の頃の新品のノートもその象徴です。新しいというのは、気持ちの良いもので、その時は大事に扱います。最初のページは、几帳面に字を書き丁寧に扱いますが、次第に字が雑になり、破れたりすることも平気になってしまいます。新品なものも手つかずの状態にしておけば、埃をかぶり、手入れを怠れば新品の輝きは失われていきます。そのうち、新品の時の喜びは忘れ去られ、粗末に扱うようになります。日々手入れを続けられれば、その輝きを保つことができるというわけです。

「初心忘るべからず」。すなわち、心も同じです。日々の「心がけ」を怠ってはいけないということです。ただし、日常の生活を送るにあたり、人間関係、障害や難関、そして思いもよらぬ出来事もあります。そこで諦めたり、投げ出さずに、その出来事に相対し明らかにして初心を貫き、一心不乱に打ち

込むことは、大変なことです。「初心捨てるべからず」とも言えましよう。

年頭にあたり、私自身もとらわれない、ことにあたっては一心一向に打ち込む。すなわち、「平常心是道（びようじょうしんぜどう）」を念頭に、本年も日々精進してまいります。

（野田市 淨禪寺住職・戌どし） 合掌

魔女の力

佐久間 紘道



昨年一冊の本に巡り合いました。非常によく売れている本で映画にもなっています。感想を一言でいえば、「自分で決めること」の尊さや大切さを改めて考えさせられました。その日

その日に、自分が何をどうするかはもちろん、自らの幸せや自らの生き方、生死の意味さえも「自分自身」が決めるものなのだ。そうすれば、その意志の強さが自らの道しるべとなり、不安のうずまき人生においても、ゆるぎなさを保っていられるのだと感じました。

悪魔を防ぐためにも、魔女になるためにも、一番大切なのは、意志の力。自分で決める力、自分で決めたことをやり遂げる力です。その力が強くなれば、悪魔もそう簡単にとりつきませんよ。

梨木香歩著『西の魔女が死んだ』

その「意志の力」を強くするための第一ステップが「早寝早起き、食事をしっかりとり、よく運動し、規則正しい生活をする」でした。

幼き頃、主催する七五三の宴席での謝礼を父親から教えてもらい、毎晩繰り返し練習しました。七五三の当日は、慣れない洋服の為か、緊張して宴席での食事もろくに食べられずに、挨拶となっでしまいました。緊張もピークを迎えながら感謝の言葉を述べ、「一生懸命勉強して、一生懸命ご飯を食べて、一生

懸命遊んで、一生懸命寝て、大きくなります」と、詰まりながらに挨拶しました。その言葉は、何十年たった今でも自分身の大きな柱となっています。

人が長い間に自然から教わり、受け継いできた知恵や、生活の基本を調えることは、特別な人がするのでなく、子供も大人も、男の人も女の人も、私達みんなができることなのです。その積み重ねが「魔女の力」なのでしょう。

（市原市 永徳寺住職・酉どし）

「ありがとう」の

数を数えながら

松井 純照



私は今年、三十九歳になります。「サンキュ」、「ありがとう」の年です。

江戸時代、「恩送り」という行為が日常的に行われていました。「恩送り」とは、人から受けた親切や優しさや思いやりなどの「ご恩」を、直接その本人に返すのではなく、必要としている人に送ることだそうです。今までに受けた「ご恩はたくさんあるけれど、返し方がわからなかったり、勉強不足・役不足であったり・・・と、理由をつけて宿題にしてしまっている「ご恩返し」が多々あることに気がつきます。けれども、まずは 出来ることから、自分がいただいた「ご恩」を困っている人、必要としている人に送ることが出来るように、「感謝のココロ」を磨き、スマートに「ありがとう」を表現していきたいと思います。

さて、今年は「鬼」がでるか？「蛇」がでるか？三十九(サンキユ)と「ありがとう」の数を数えながら、「恩送り」のチャンスを見つけていきたいと思ひます。「竜頭蛇尾(りゅうとうだび・はじめは勢いがよいが、終わりのほうはふるわないこと)」にならないよう、三十代のまとめに勤めてまいります。今年もよろしくお願いいたします。

合掌

(瓏仙院守塔・寅どし)

浅き川も深く渡れ

松井量孝



何かを行ない了えたとき、大事なものを置いてきてしまったような気持ちになることがあります。そういうときは、「まあ、やればよい」と考えていた自分に気がつきません。「ていねい」ということが足りなかった自分です。おそらく、自分のいのちの有効期限を知っている人はいないでしょう。そのことを切実に考えるとき、どんなときも、大事なものを置いてきてしまうような生き方ではないと思ひます。

竟日通夜(ひねもすよもすがら)、物来って心に在り、心帰して物に在らしめ、一等に佗と精勤弁道(しょうごんべんどう)す。

道元禅師『典座教訓』

このことばに「ていねい」ということを学ばせていただきました。いま・ここ・このことに、自分のからだと心をどっしりとおく。そのことと自分がひとつになるということ。いつのときも、どんな人・こと・ものにも、大切に向き合うということなのだと思ひます。それが、「浅き川も深く渡れ」ということなのだと思います。最近まで、このことばは「用心に用心を重ねなさい」という意味だと思ひていました。けれども、それだけではないのだと気がつきました。その深さが、「ていねい」ということなのだと思います。そして、そのことが、一つひとつの縁を熟させていくのだと思ひます。

「ていねいに生きる」ということ。それほど難しいことではないような気がしますが、実は、やさしいことでもないのだと思ひます。けれども、難しいからと遠ざけていけば、その道は遠くなるばかりです。「念ずる」ということは、はっきり心に記憶し、常に忘れないという意味だそうです。大切なことをいつも心にかけて忘れずにいけば、きつと成就するのだと。「ていねい」ということを念じ、熟させていきたいと思ひます。

合掌

本年もよろしくお願いいたします。

(当山 副住職・編集小子・未どし)